

# 実践的なロス対策を紹介

## 店舗のカメラ設置標準例と制服警備をテーマに

### J E A S

工業会 日本万引防止システム協会（東京都新宿区、稲本義範会長、以下、JEAS）は、10月15日に「店舗のカメラ設置標準例と店舗の制服警備（立哨・巡回・接遇）」がテーマのウェビナーを開催。実践的なロス対策及び防犯対策がJEASの専門家から説明された。

刑法犯認知件数が再び増加傾向となっているが、万引犯罪も同様に増えている。外国人グループなどによる大量窃盗も大きな問題となっており、店舗では効果的な対策を講じる必要がある。

JEASでは現場が抱える課題に対応するため、今回のウェビナーを開催した。JEASの稲本会長はIPカメラやAI技術が進化している状況に加え、全米小売業協会（NRF）のイベントで小売店舗を5つのエリアに分けて、防犯ポイント管理・定義する手法が発表されたことを紹介。そして、「それらのポイントに警備上の管理ポイントも加えて、店舗のロス対策と防犯対策について各分野の専門家から説明申し上げます」と開催趣旨などを説明した。

店舗のカメラ設置標準例については、森川真次

監事（アクシスコミュニケーションズ）と豊田孝志交通機関と関連店舗の保安強化プロダクトマネージャー（Geovision）が、NRFのイベントでIPカメラを防犯目的で設置する際のコンセプトとして提唱された「5-Zone Concept」の概要を解説。店舗内を公共エリア・駐車場・出入口・売り場（バックヤードも含む）・レジエリアという5つのエリアに分けるとともに、IPカメラ運用の目的、カメラ性能を引き出すポイントなどにも言及した。

店舗の制服警備（立哨・巡回・接遇）に関しては、山根久和副会長・科学保安講習プロジェクト総括指導（セフトHD）と青柳秀夫科学保安講習プロジェクトリーダー（日本保安）が説明を行った。制服店内保安警備の導入事例と効果的な活用方法、見せる警備である「制服警備」と覆面警備となる「私服警備」の目的と目標についての具体例や留意点が挙げられた。

そして、稲本会長からデータガバナンス・タスクフォース合宿の内容も報告された。JEASのHPにてアーカイブ動画を視聴できる。